

アステックの水処理ソリューション事例

『ドロンパ』及び『ドロンパC』の農作物(米・麦)への影響



概要

Summary

福岡県大牟田市内の圃場において、弊社水処理材『ドロンパ』及び『ドロンパC』を散布し、米及び麦を二毛作で栽培することで、各資材が植物育成へ悪影響を与えない事を確認した。



【実験詳細】

散布量は区画(約100㎡)あたり40kgであり、これは作土層を25cmとすると1.6 kg/㎡に相当する。各資材は希釈して水平面に対し可能な限り均一になるように手作業で散布した上で、作土層についてトラクターで耕耘し均一化させた。栽培した品種は米が『ヒノヒカリ』、麦が『シロガネコムギ』である。

成果

Result

収量比較(玄米ベース 単位:kg/㎡)

収量(玄米ベース)	未施工区	ドロンパ散布区
2012年度	0.60	0.68
2013年度	0.43	0.50

上表の通り、ドロンパ散布区において施工して2年間の面積当りの収量(玄米ベース)は未施工区に比べ増加していたため**植物育成に悪影響は無かった**といえる。麦についても通常通りの育成を確認した。また『ドロンパC』散布区についても『ドロンパ』散布区と外観上の違いが無かったため、『ドロンパ』と同様に悪影響は無かったといえる。



ドロンパ散布区収穫直前の麦
2012/6/8撮影



収穫直前の米の生育状況(左:ドロンパ散布区及びドロンパC散布区、右:未施工区) 2012/10/15撮影

展望

Prospect

試験結果の通り『ドロンパ』や『ドロンパC』の成分は植物育成に悪影響を及ぼさない。つまり各資材で水処理した際の凝集汚泥の再利用方法において、植物育成が求められる用途においても使用可能である。また今回の試験で改めて『ドロンパ』並びに『ドロンパC』が生物・生態系に対して安全・安心な資材であると裏付けられた。